



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚  
鮎返りの滝

年代未詳 財田町  
(三豊市指定名勝)

戸川ダムから<sup>たにみち</sup>溪道川をさかのぼったところにある。その名称が示すとおり、川をのぼってくる若鮎が滝の流れのために進むことができなかったと伝えられている。また『讃州府志』には、斧を研ぐほどの勢いであったと記されている。近年は滝の周辺も整備され、平成16(2004)年には財田町指定名勝となる。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。「文書館 ☎63・1010」

「思い出の1ページ」

「私が子どものころの鮎返りの滝は本当に水がきれいだったんだよ」と話すのは、滝の近くに住む澤井香さん(89)。

「鮎返りの滝という名前の由来のとおりに、昔はたくさんのお魚が滝のふちにおいて、他にも小魚がたくさんいました。小学生のころは、戸川池から<sup>たにみち</sup>溪道川を通って、魚を取りながら鮎返りの滝まで泳いで行っていましたよ。当時は、滝へ行く道は一本しかなく、整備もされていませんでした。地元の人でも滝のことを知っているくらいで、見に行っていた人はほとんどいなかったなあ。また、滝の周りには、真っ白の小さなコマツツジと赤色のヤマツツジが咲いていてとてもきれいでした。しかし、高度経済成長期に庭木づくりがはやって、ツツジはいつのまにか無くなってしまったんですよ」と懐かしそうに話してくれました。

「この写真の鮎返りの滝は、ゴツゴツした岩が目立っているでしょう。でも今は、整備されて穏やかな雰囲気になりました。財田町指定名勝となつてからは訪れる人も増えて、滝の近くでキャンプしている家族連れ

もいますね」。

澤井さんが参加している石野老人会では、年2回鮎返りの滝の掃除をしていて、約20人で滝周辺の道の落ち葉の片づけなどを行っています。

「大雨が降ると滝のふちに上流から流れてきたごみがたまってしまう。少しでもきれいな滝であってほしいと、これからは掃除を続けたいですね」と笑顔で話す澤井さんが印象的でした。

編集後記



「人口17人の島を30人に増やしたい」。志々島振興合同会社・北野省一さんのこの一言を聞いて、志々島の特集をしようと決めました。それから島に行くたびに、「島のために」と取り組む人々と出会い、ひとつひとつの地道な活動に胸を打たれました。「愚公山を移す(どんなに困難なことでも根気よく努力すれば、必ず成し遂げられる)」。これは北野さんの座右の銘です。私たちにも何かできることがあるはず。いま、少しだけ考えてみませんか。